

〈参考 1〉 路面電車建設改良計画 (平成24年度～平成36年度)

ループ化10年後の平成36年度までに見込まれる設備投資は、下表のとおりです。

新たな設備投資としては、ループ化の工事費に19億円程度、低床車両の導入費に44億円程度、既設線の機能向上に係る経費として8億円程度を見込んでおり、税負担により整備を進めます。

また、老朽化施設の改修費としては、25億円程度を見込んでおり、乗車料金等で負担します。

これらの設備投資を進めるにあたっては、今後の安全運行の確保に最大限配慮するとともに、国の補助制度等をできる限り活用して、負担の抑制を図ります。

○新たな設備投資

(単位:百万円)

ループ化工事	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H24～H36 合計
軌道・架線・停留場設置等	66	233	1,596											1,895
低床車両の導入														
車両購入	305		525	525	525	525	263	263	263	263	263	263	263	4,246
低床車両導入に向けた工場の改修	44			111										155
合計	349	0	525	636	525	525	263	263	263	263	263	263	263	4,401
年度末在籍車両数	31	30	30	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
うち低床車両	1	1	3	5	7	9	10	11	12	13	14	15	16	

(H30末) 1/3が低床車両

(H35末) 1/2が低床車両

既設線の機能向上	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H24～H36 合計
街路拡幅に伴う軌道改良及び停留場バリアフリー化等		1	1	103	71	67	52	47	30					372
運行情報システムの導入		270												270
SAPICA共通利用対応	90	20												110
合計	90	291	1	103	71	67	52	47	30	0	0	0	0	752

○老朽化施設の改修

老朽化施設の改修	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H24～H36 合計
車両改修	203	120											60	383
軌道改良	102	73					47	47	47	94	112	111	147	780
工場・車庫改修 (S43築)	24	20		144	301									489
管理棟改修 (S59築)	7	8	139	17										171
変電所設備改修		33	39		3	192	444							711
合計	336	254	178	161	304	192	491	47	47	94	112	111	207	2,534

〈参考 2〉 中期収支シミュレーション

現行体制において、ループ化による需要の増加や経営の効率化、200円への料金改定を想定した場合の中期収支シミュレーションは下表のとおりです。

今後、経営形態の見直しに向けた検討などの中で変動することが想定されるものの、概ねループ化後7年目頃には単年度黒字となることが見込まれます。

(単位:百万円)

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	
営業 常 収 支	収入													
	料 金 収 入	998	992	987	1,188	1,182	1,176	1,170	1,163	1,156	1,150	1,144	1,137	1,131
	そ の 他	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
	計	1,049	1,043	1,038	1,239	1,233	1,227	1,221	1,214	1,207	1,201	1,195	1,188	1,182
	人 件 費	843	702	735	829	668	719	887	721	680	609	621	667	601
	退 職 金 以 外	745	702	710	704	668	669	662	621	605	584	571	567	551
	退 職 給 与 金	98		25	125		50	225	100	75	25	50	100	50
	経 費	408	419	481	462	466	460	476	455	454	460	462	455	471
	修 繕 費	228	228	228	266	266	266	266	266	266	266	266	259	266
	そ の 他	180	191	253	196	200	194	210	189	188	194	196	196	205
減 価 償 却 費	149	158	155	137	119	111	105	115	107	99	95	89	84	
計	1,400	1,279	1,371	1,428	1,253	1,290	1,468	1,291	1,241	1,168	1,178	1,211	1,156	
差 引 (A)	▲351	▲236	▲333	▲189	▲20	▲63	▲247	▲77	▲34	33	17	▲23	26	
営業 外 支 取 支	一般会計補助金	203	208	215	65	66	69	69	65	64	63	65	68	69
	そ の 他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	204	209	216	66	67	70	70	66	65	64	66	69	70
	企業債利息	16	17	20	22	23	27	28	32	31	29	28	24	24
	そ の 他	23	13	13	13	13	13	16	19	19	20	21	22	23
	計	39	30	33	35	36	40	44	51	50	49	49	46	47
	差 引 (B)	165	179	183	31	31	30	26	15	15	15	17	23	23
	經常収支差引 (A)+(B)=(C)	▲186	▲57	▲150	▲158	11	▲33	▲221	▲62	▲19	48	34	0	49
	利益剰余金又は累積欠損金	▲392	▲449	▲599	▲757	▲746	▲779	▲1,000	▲1,062	▲1,081	▲1,033	▲999	▲999	▲950
	資本 的 収 支	企業債	330	281	247	161	304	192	465	21	21	40	47	61
国庫補助金		25	24					15	15	15	31	37	29	49
社会資本整備総合交付金		247	223	909	369	297	295	157	154	146	131	131	131	131
一般会計補助金		273	318	1,212	370	299	297	169	167	158	155	160	153	168
受託工事収益		166	49	173	152	147	125	98	64					
計		875	1,012	2,417	1,073	1,052	931	931	455	404	357	375	374	470
建設改良費		885	846	2,368	900	900	784	806	357	340	357	375	374	470
受託工事費		166	49	173	152	147	125	98	64					
企業債償還金		117	138	153	162	184	181	155	125	133	156	211	193	183
計		1,002	1,150	2,570	1,235	1,236	1,112	1,096	580	537	513	586	567	653
差 引 (D)	▲127	▲138	▲153	▲162	▲184	▲181	▲155	▲125	▲133	▲156	▲211	▲193	▲183	
損益勘定留保資金等 (E)	172	191	185	164	156	137	160	128	119	118	116	111	118	
当年度資金過不足額 (C)+(D)+(E)=(F)	▲141	▲4	▲118	▲156	▲17	▲77	▲216	▲59	▲33	10	▲61	▲82	▲16	
年度末資金過不足額	327	323	205	49	32	▲45	▲261	▲320	▲353	▲343	▲404	▲486	▲502	
年度末企業債残高	1,419	1,562	1,656	1,655	1,775	1,786	2,096	1,992	1,880	1,764	1,600	1,468	1,407	

※建設改良費及びその充当財源となる収入は税込、その他は税抜。

※平成24年度数値は予算案

○シミュレーションの前提

・既設線の乗車人員は、平成18年度パースントリップ調査および平成19年度沿線アンケート調査をもとに年0.54%の減を想定。

・ループ化による乗車人員の増は、同調査をもとに一日600人程度を想定。

・人件費は、現行経営体制での内部効率化を前提として試算。

・平成27年度当初に170円から200円への料金改定を想定。